

公表

事業所における自己評価総括表（放課後等デイ）

○事業所名	おれんじ村		
○保護者評価実施期間	令和 6年 11月 1日		～ 令和 7年 1月 16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	53	(回答者数) 29
○従業者評価実施期間	令和 7年 1月 17日		～ 令和 7年 1月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 1月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所の職員は、公認心理師や認定心理士をはじめ、心理職が多く在籍しており、お子様への支援を心理的な観点を始め、多面的な支援を行っています。	心理的なアセスメントやアプローチだけでなく、お子さま一人ひとりの学習スタイルを考えて支援を行っています。	今後さらにフォーマルなアセスメントを取り入れて、支援を行えるようにしていきます。
2	臨床動作法やピアーズなどの支援やプログラムなど、臨床心理学に基づいた専門的な支援を行っています。	1回の実施とならずに、より効果や結果につながるように、何度も繰り返して複数回実施しています。	必要なお子様には専門的支援実施計画書に記載し、より重点的に支援できるようにしています。
3	皆であそぶといった、集団遊びを活動の一つとして設けており、他児と関わる機会を設けています。	お子様が楽しく参加できるように、ルールやマナーなどを明確に提示しています。気持ちが乱れたりしたときの対処法なども併せて提示しており、どうすればよいのか、どう振舞えばよいのかなども実際に体験できる機会となっています。	遊びが固定化されないように、様々な遊びを行ったり、既存のルールに加えて新しくルールを設けるなど、その日の一人一人のお子さまのニーズに合わせてながら、より充実した活動になるようにしていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会や茶話会の回数が少ない事が挙げられます。	新型コロナウイルスの影響があったことが挙げられます。	令和7年度から、毎月ベレントプログラムを行い、保護者支援も充実できるように取り組みます。
2	きょうだい児の支援がない事が挙げられます。	思春期以降のお子さまが利用されているため、就学や就労を見据えるなどの本人支援が優先されてきたことが挙げられます。	保護者会のテーマとして、きょうだいの支援に関するお話しやお伝えできる機会を設けます。また、面談や相談にて本児だけでなく、きょうだい同士の関係性、きょうだいのご心配なこと等があれば、お話を伺い、対策を一緒に考えていけるようにします。
3	非常時対応やマニュアルの周知が十分でないことが挙げられます。	入り口付近に掲示していますが、気づかれない事が挙げられます。	送り迎えなどの際に、保護者の方に直接お伝えするようにします。また、月に1回配布しているおたよりでも掲示されていて、自由に読まれても可能なことをお伝えします。